





座談会

シリーズ 水田農業イノベーション

現場の経営者が思い描く これからの水田農業

1 このメイズハーベスターを使って稲WCSも収穫する（黒内智治さん）
2 パートナーである酪農家に稲WCSを品質第一で届けている（関根正敏さん）
3 耕作放棄地を積極的に借りて、規模拡大を実現した（川中子康文さん）
4 水稲単作地域で稲収穫後は暗渠施工に奔走する（小泉輝夫さん）

乾田直播などの水稲技術のイノベーションや子実トウモロコシといった作物の新規導入など、本誌では水田農業イノベーションと題して、新たな取り組みを紹介してきた。現場の若い世代の経営者は何を思い、これから何に挑もうとしているのか、声を聞いてみた。

（取材・まとめ　加藤祐子）

地域の風土に合った経営の形

――今日はお集まりいただき、ありがとうございます。それぞれの水田経営のお話を大いに語っていただきたいと思います。まずは、関根さんから自己紹介をお願いします。

関根正敏　標高80mくらいの関東平野で一番平らなところで施設、花卉、トルコキキョウをメインにやっていて、その他に米麦の関係の農事組合法人で経営をしています。群馬県前橋市は二毛作地帯なので、麦とお米の二毛作ですね。今年の水稲の作付けが新規需要米を入れて75haくらい。麦が同じく75ha。それとジャガイモなどの露地野菜で5haが主な経営です。加えて、コントラクターの組織で飼料稲の刈り取りを25haやっています。

――新規需要米というのは？

関根　稲WCS（ホールクロップサイレージ）と飼料米ですね。今年は主食用が50haくらいで、稲WCSが17ha、残り8haが飼料米の予定です。作業受託の部分はうちでこなせるんですけど、農事組合法人の作業は、10人の組合員と二人の正社員で機械を持ち合って、あとは地域でやれる人にやってもらって、こなしているような状況です。

――続いて、小泉さんお願いします。

小泉輝夫　私は千葉県成田市でコメ単作が中心です。水稲の面積は35haくらいで、大豆が5haですね。区画が狭くて、圃場条件が悪くて、乾田直播が厳しいところです。圃場面積の平均が12aとかなので。

関根　平均12aですか？　よくその圃場でその面積をこなせますね。

小泉　正直、自分でもびっくりしています（笑）。田んぼは水を保ち過ぎるところなので、暗渠入れて乾かして、プラウかけて、レベラーかけて上っ面を踏むみたいな形にして、何とか仕事をしている感じです。火山灰土、砂、ケド土、粘土、じょう土、沖積土……**あらゆる土質があって**、一部は冬場にプラウをかけないと代かきにならないところもあったりしますね。

――作業人数は？

小泉　父と二人です。何が大変かと言えば、水稲育苗のハンドリング。

種まきのときなどは同級生仲間が来て、現物支給で手伝ってくれます。水利設備がないなど条件が悪くてコメがつくれないところは、大豆や緑肥で展開したりするんですが、それもそろそろ厳しくて、転作などいろいろ考えています。

――次に、川中子さんお願いします。

川中子康文　私は後継者でもあり、経営主でもあって、家に経営体が二つある状態です。栃木県の下野市で、私の伯父が野菜の苗づくりで成功したのを親父が引き継いで、今では毎日大型トラックが取りに来て、日本中に出荷するほどになっています。私も高校を卒業して家業に入って同じようにやり始めました。とにかく毎日チマチマ種を播いて、その後は植え直しで鉢上げしてって。でも、まだ若いので、こんなことはやりたくないって感じでした。近所にジョンディアとかでブァ～と走っていく人たちがいたので、俺もあぁ～なりたいと。そこから親に相談して、「俺は米麦をやりたいからそっちをやる」と伝えて、米麦を始めました。

小泉　今も親御さんは野菜の苗の生産をしていて、自分で利用権設定とかして田んぼや畑を借りてるの？

川中子　そうです。完全に別で。親父はコメも麦も全部触らないので。

――始めたのはいつ頃ですか？

川中子　米麦のほうはゼロからのスタートで4年目に入ったと思うんですけど、今、40haくらいです。

――では、同じ栃木県の黒内さん、お願いします。

黒内智治　うちは高根沢町で基本的に酪農と水稲と麦と飼料作物をメインにやっています。酪農は搾乳牛が60頭、育成が35頭、全部で１００頭欠けるくらいですね。水稲は16haくらいで、稲刈りなどの部分委託と合わせて22haくらいかな。その他、牧草のイタリアングラスが8ha、ビール麦が8ha、その裏作にデントコーンが17ha。あとは、耕種農家がつくっている稲ＷＣＳの収穫・梱包が15haと、稲ワラわらの集積が40haほど。オペレーターとしては俺と親父だけで、うちは家族労働です。

耕作放棄地の再生で規模拡大

――それぞれ個性がありますね。まず驚いたのは、川中子さんの米麦ですね。どうやって始めたのですか？

川中子　親父が家で食べる分として2～3haの田んぼをつくっていたんですよ。その分と、別に5haくらい借りて始めました。機械も33馬力の20数年前のトラクターとコンバイン4条刈り1台程度だったので、とりあえず60馬力のトラクターを買ったんです。それで、草が生えているようね圃場を見つけて、近所のおばちゃんらに「あそこの持ち主を教えてくれ」って聞いては、飛び込みでその家に訪問して「つくりたいんだ」って話しました。

黒内　その格好で行ったの？

川中子　いや、普通車やトラックじゃ絶対に行かないです。1回言われたんですよ。ダンプで、もみ殻運んでいる時期に差し枠いっぱい積んで行ったら、田んぼに不法投棄されると思われて、警戒されたんです。

一同　（爆笑）

川中子　前にもそういうのが来て、思いっきりゴミ捨てて逃げられたんだ、兄ちゃんもそうじゃないのかって言われて。これはマズイと思って、それからは、作業着来て、サングラスとかピアスを外して、角刈りだったので帽子かぶって、軽トラでいかにも真面目ですという感じで。

小泉　アグレッシブだな～。

川中子　さらに、知り合いの農業委員をしていて顔の広い人に「俺は米麦でデカくやりたいから土地を借りたいんだ」って相談したら「任せとけ」って、次から次へと紹介してくれました。ある程度借り始めたら、逆につくってくれと言われるようになってきたんで、来るもの拒まずで、ひどいところだと2aとか3aの畑とかも借りて。


川中子さんが耕作放棄地から再生した水田

川中子　本当は田んぼを借りたいんですけど、40haのうち、水田は10haしかないです。田んぼは意外と誰でもつくってるので、畑ばかりなんです。でも畑って意外と境がないので、道路の手前から徐々に借りていって1枚1ha以上とかにしています。

黒内　なるほど、それで効率が上がるんだ。そういう考えはなかったな。

小泉　作物は基本的には麦？

川中子　田んぼで借りているところ

にはコメをつくって、それ以外は小麦で。減反のところだけは二毛作にしてビール麦を。去年、小麦収穫後の7月に播いて、陸稲を1haつくってみたんです。雑草が問題だろうなと思って、草の生えるところで試してみたら意外と良かったので、今年はとりあえず10haくらいやってみて、上手くいけば麦との二毛作で陸稲をつくろうかなと。どちらもドリルシーダーで播きます。

関根　とりあえずで10haなんだ。うちのほうでは考えられないね。

川中子　結局1人でやってるんで、夏場にトラクターに乗り切らなくなってきちゃって。意気込みだけでどんどん借りたのはいいんですけど、畑で耕作放棄地みたいなところが多いので、モアで2mくらいの草刈りから始まるところもあって、今ではあいつに言えば、どこでもつくってくれるよって言われてますね。

黒内　小泉さんみたいだね。ダメなところは回せみたいな。

小泉　回されたくないんだけど、何とか頼むよって言われるのをやっているうちにそういうところがどんどん来ちゃうようになってね。

川中子　役場の農政課とか農業委員ともどんどん交流するようにして、つくってほしいっていう人からの連絡が来るようにしてもらってます。

黒内　それは相当行動力がないとできないよね。

小泉　通常はそれできないよ。自ら貸してくれって出向くんでしょ？

川中子　耕作放棄地を解消すると10a当たり2万円もらえるので、それも大きいですね。

黒内　えっ、そんなにくれるの？

川中子　役所が登録しているところならくれますよ。でも、役所の言う耕作放棄地は下手すると、山林って言いたくなるようなところだったり、ゴミが捨てられてたりするんです。



関根 正敏

（群馬県前橋市）

1973年生まれ。農事組合法人元気ファーム20の総務部門・理事、せきね園芸・代表。組合員59名（中心になって働いているのは10名）と正社員2名で小麦と水稲の二毛作で75ha、露地野菜5haを生産。その他に個人で施設栽培33a、花き（トルコキキョウ）25aを経営し、コントラクターで飼料米刈取りを25ha作業受託している。



小泉 輝夫

（千葉県成田市）

1974年生まれ。小泉ファーム・代表。自動車整備の専門学校を卒業後、実家に就農し、30歳で経営を移譲される。周囲が小山に囲まれた地域で排水性が悪く、圃場1枚当たりの面積が12aという小さい圃場で、水稲を中心とした経営を営む。条件の悪い圃場も引き受けて、規模を拡大してきた。経営内容は水稲35ha、大豆5ha。

二毛作か、乾田直播の導入か

――関東地方のなかでも群馬や栃木は米麦二毛作のエリアですね。麦刈りはいつぐらいですか？

関根　一部の大麦は5月の後半ですが、ほぼ6月10日から20日までの10日間ですね。「さとのそら」という品種が一番多いのですが、70haの平均で500kg／10aを超えるので、去年みたいにとれない年でも割と収量がとれるんですよね。

黒内　高根沢町は農協がビール麦しか受け入れないのでビール麦だけですが、6月10日前後に収穫します。栃木県南から群馬にかけては5月中頃には黄金色に輝いていますよ。このあたりは圃場が乾くので畑作物の麦にもいいんですね。

小泉　千葉は麦やっている人、少ないので、わからないですね。二毛作だと、水稲は田植えが中心ですか？

関根　田植えですね。時期の問題で直播はできないので。稲刈りがどうしても遅れるので、そうすると青米ばかりになっちゃうし、今度は麦刈りも間に合わなくなるので。

黒内　それ、二毛作の欠点だね。

関根　本当ですよね。ただ一つの田んぼから出しているものは多いので、それがメリットですね。

黒内　水田の改造をやっている暇ないでしょ？

関根　そうでもないですよ。11月はレーザーレベラをかけられるし、大麦のところは春にもレーザー入れら

れるんで、そのくらいの蓄えはつくれますよ。

黒内　うちのビール麦は畑作で、裏作にはデントコーンを植えるので、水稲は乾田直播できるんですよね。

小泉　機械がそろっていたら乾田直播に挑戦できるでしょ？

黒内　うちも播種機はチューメの実演機を下ろしているから、それを使いまわしたらいけると思うんです。直装で作業幅３ｍだけど、トラクターは１００馬力も１５０馬力もあるので。レムケンのヘリオドールもウエイトなしで持ち上がりますよ。

小泉　いいですね。ショートディスクとか見ちゃうと、外車トラクターかな……。**時代が来てますかね。**

川中子　うちも今年は乾田直播きゃろうとしていますよ。

黒内　ノードストンの播種機で小麦、ビール麦、陸稲、水稲の全部をやろうとしているのも凄いな。

小泉　うちは条件が悪いので、今まで湛水直播を選択してきたんだけど、機械がそろってきたので、乾田に移行したいなと思っています。代かきする前にレベラーで均平したり、代かきするにしてもさっとで済むし、早期に乾田直播で播けるならそれでいこうかと。どうしようもならないところは、もう湛水で播いちゃうっていう感じでね。

水田で飼料作物をつくる意味

――作物の組み合わせや機械体系の工夫によっても技術革新は進んでいますが、交付金は飼料にシフトしてきています。これからの経営を考えた時、酪農もされている黒内さんはどんな挑戦を考えていますか？

黒内　今考えているのは、１００％自給飼料できないかということですね。購入飼料がないと日本の酪農がもたないという固定概念を外すには、配合飼料分をイアコーンサイレージなど普及されている技術もあるだろうし、ＷＣＳもコメじゃなくてもいいだろうし。基本的に配合飼料は大豆、麦、トウモロコシが原料なんですから、つくれると思うんですよ。特にタンパク質がないので、大豆ＷＣＳもできないかと。すべて購入飼料でやろうとするから経費を引かれると乳代が出ないんですよ。

――そういう考えを持っている酪農家をはじめとする畜産農家と組めば可能性はさらに広がるでしょうね。

黒内　飼料米もしかり、稲ＷＣＳにも言えることなんですけど、耕種農家がただつくって８万円もらうというのは、農家としてのモラルに欠けていると思うんですよ。春先まで圃場にＷＣＳのロールを投げておいて、そこから運び出したら穴だらけですからね。これを売っていると聞いた瞬間に、買っている方も馬鹿だなと思ったけれど、売ってる方は最低だなと思うんですよ。

――黒内さんのつくる稲ＷＣＳは少し違うと聞きましたが。

黒内　デントコーンサイレージをつくっているので、同じ立毛の稲も同じ体系で刈り取ってロールにしています。チャンピオン（ケンパー）のメイズハーベスターでトラクターを後進させながら収穫して、フロントのコンテナに積みます。それをワゴンに移して持ち帰ってタカキタの細断型ロールベーラーに入れて高気密圧縮してラップを巻いて貯蔵するという作業体系ですね。

関根　コストさえ合えば、うちでもやりたいですね。

黒内　なるべくグラブでつまむ回数を減らして、ロールの損傷を最小限にしています。ここまでたどり着くのに３年かかりましたけど、品質一番で考えたらこうなりました。畜産農家も専用機で刈った稲ＷＣＳしか知らないから、それしかないと思っちゃうんです。いいものをつくろうという人間にプラス査定があっても



黒内 智治

（栃木県高根沢町）
1975年生まれ。黒内牧場・代表。農業大学校を卒業後、就農し、家族で酪農と稲作の複合経営を営む。経営内容は、酪農（搾乳牛60頭、育成牛35頭）、水稲16ha、畑作17ha（ビール麦8ha、イタリアングラス8ha、裏作のデントコーン17ha）と作業受託（稲刈、稲WCSの収穫・梱包、稲ワラの集積）など。



川中子 康文

（栃木県下野市）
1990年生まれ。川庄園・代表。地元の農業高校卒業後、家業の野菜苗生産に従事するも、トラクターを乗り回す米麦栽培に憧れて、20歳で独立する。実家を手伝いながらも、有休農地を引き受け、耕地に再生するところから始まり、4年目で水田10ha、畑30haまでに拡大。水稲、陸稲、小麦、ビール麦を生産。今年は乾田直播にも挑戦する。

座談会 現場の経営者が思い描くこれからの水田農業

いいですよね。

――飼料を使う側でもあると強みになりますね。次に関根さんはどのような取り組みを考えていますか？

関根　飼料米のソフトグレインサイレージですね。パートナーの酪農家から来た依頼に応える形です。普通に収穫した飼料米を粉砕して、加水してフレコンに入れて密閉して、乳酸発酵させたもののことです。ライスセンターをつくる計画が通れば、米麦の乾燥調製施設とソフトグレインの関係の工場を併設することを考えています。うちがソフトグレインに取り組むのは、雇用の問題もあります。水田農家なので、ある程度乾燥して保管しておけば、冬の仕事になりますから。ただ、問題は粉砕機の能力ですね。


小泉さんの圃場は排水性が悪いため、冬場の暗渠施工は欠かせない

黒内　その作業が簡素化できたら、抜群に能率上がるんですけどね。

関根　200kg／時程度でフレコン1本分がせいぜいで、それ以上の能力を求めようとすると、高価になるので。販売価格は稲WCSがキロ10円、飼料米はキロ30円で、ソフトグレインもキロ30円で考えています。あとは運搬と倉庫代の問題ですかね。倉庫はライスセンターができれば少し解決するかと。酪農家までは15～20分の距離ですが、市の補助（5000円／10a）が出るので助かっています。

黒内　すごく良心的な価格ですね。うちはあの体系を維持するためにはせめてキロ14円はほしいですね。

関根　本当はもう少しほしいですが、現状のお互いの状況を分かっているので、良心が働いて、経営者になれないっていう（笑）

黒内　仲間に吹っかけるわけにはいかないですからね。

――ところで、小泉さんは何か取り組まれるのですか？

小泉　やってみたいと言えば、子実トウモロコシですね。正直、ここまでの話を聞いていても、千葉の生産者は何もわからないんですよ。まず周りに畜産農家がいないですから。特に低湿地帯でコメ以外つくれない地域で、俺の場合は乾田直播をやるとか、規模拡大しようとしたら飼料作物も含めて可能性を考えることは経営者として必要になります。

黒内　トウモロコシは栽培するの、楽ですよ。作業工程はスタブルカルチをかけて、バーチカルハローかけて、播いて、除草剤はたぶん1回撒けば十分ですから。水田の裏作なら畑の雑草が生えてこないので。

小泉　農地を守るという意味ではなく経営として考えると、トウモロコシの投下労働時間が1・1時間だっていう盛川さんの話を聞く限り、面積いっぱいやれることでギリギリ合うなら、トウモロコシはありなのかなと。畜産農家としての可能性という話でいうと、実際、どうですか？

黒内　ありじゃないですか。数量をとりまとめて、製品として成り立つのであれば。下手すると、手間は1／10以下でしょ？

小泉　近所の養鶏家から鶏糞をもらって、とれたトウモロコシを全部引き受けてくれるというのなら、試験的にやってみてもいいかなという気はしていたんだけど、自分で自給飼料をつくるのは難しいと言われて。昆さんが熱く語れば違うのかもしれないんだけど、あとは最終的には値段の問題なんでしょうね。

黒内　やっぱり、それしかつくれないという地域に何か新たなものを入れるっていうのは、模索しないとこれだけは見つからないですからね。オレ、小泉さんに励まされたわ。なんて甘ったれた地域でコメつくってるんだろうって気づかされました。

小泉　結局、これは地域の問題でもあると思うんです。関根さんだったり、黒内さんだったり、川中子くんだったり、その地域の条件とか風土にあった経営をしているからそれで成立していて。うちの地域はコメ単作ですでに難しい経営になっちゃってると思うんですね。特に一般の方は凄い厳しい状況に置かれているのかなと。その危機感を考えると、トウモロコシはオプションとして考えないとダメなのかなと。同じ生産者として飼料に目を向けることってすごく大事かなって思います。今日はとても勉強になりました。

関根　ありがとうございました。

川中子　今年も頑張りましょう。

――ありがとうございました。